

第3章 計画の基本的な考え方

1 目指すべき姿（基本理念）

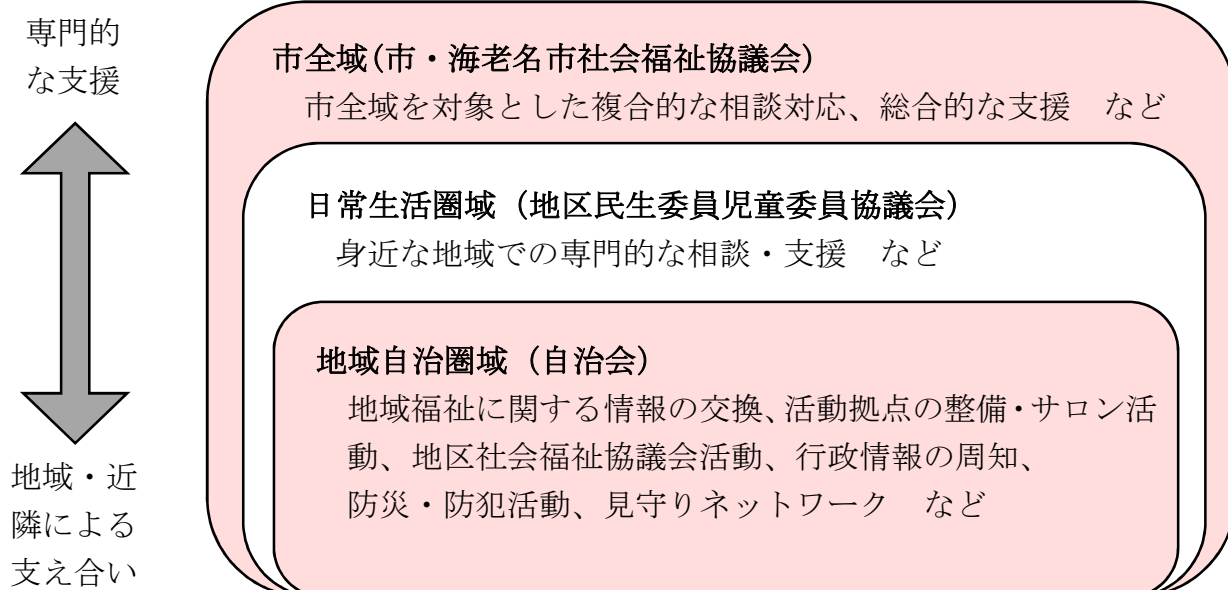
本計画の理念は、市の最上位計画である「えびな未来創造プラン2020」の基本理念「みんなが笑顔 住みやすいまち えびな」を踏まえ、「地域でともにささえあい 認め合う みんなが笑顔になれるまち」とし、市民とともに、支え合いながら、地域福祉を推進していきます。

地域でともにささえあい 認め合う
みんなが笑顔になれるまち

2 圏域設定の考え方

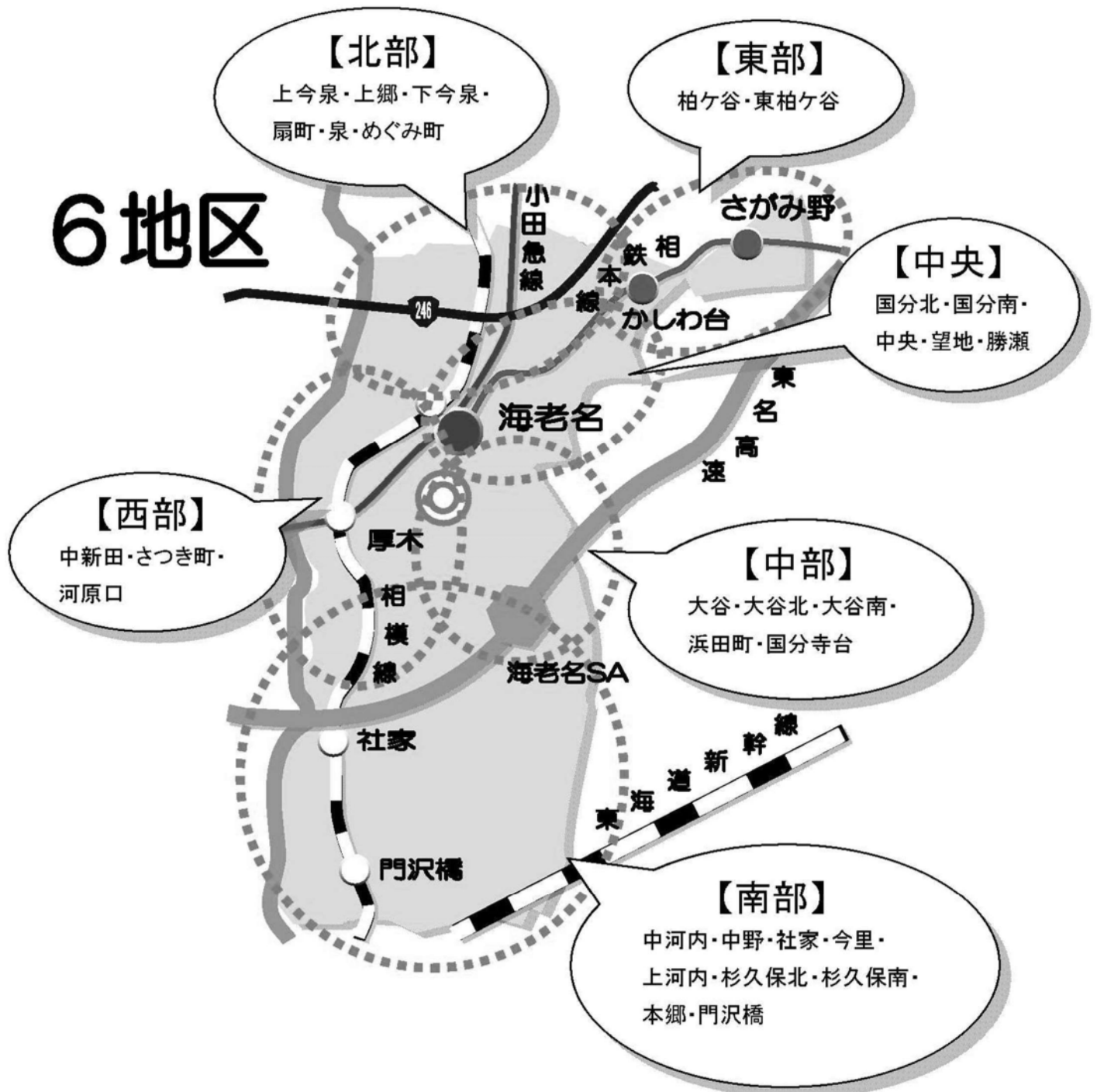
計画では、地域福祉を推進するため、地域福祉活動の圏域を設定します。圏域設定は、包括的な支援体制を整備していくうえで、「住民の身近な圏域」において、地域住民等が主体的に地域生活課題を把握し解決を試みることができる環境を整備するために重要です。また、本計画が中心となって、地域福祉を推進する基礎となる圏域を設定することで、分野別計画や関連施策等との調整を図ります。

海老名市地域福祉計画では、59の自治会と、各自治会から推薦いただいた、民生委員児童委員の地区割である6地区（北部、東部、中央、中部、西部、南部）を圏域とし、地域福祉を推進します。



3 海老名市6地区の現状

海老名市を6地区（地区民生委員児童委員協議会の北部・東部・中央・中部・西部・南部）に分けた、それぞれの地区の特色や活動などについて示します。



北部地区

〈位 置〉

市の北部に位置します。南北に横たわる座間丘陵と相模川左岸の低地にかかる地域が含まれ、丘陵をうがって目久尻川が柏ヶ谷との境をなしているほか、丘陵西側には、「九里の土手」の急崖を境に旧相模川の沖積低地である海老名耕地が広がります。また、台地上には秋葉山古墳群が連なり、この台地の古さを物語っています。

東は柏ヶ谷と国分北、西は相模川を挟み厚木市、南は国分寺台・浜田町・勝瀬、北は座間市に隣接しています。

〈特 色〉

北部地区は、海老名駅西口方面に大規模商業施設があり、大型マンションの建設が予定されているなど、急速に都市化が進んでいます。週末には、買い物などの目的で多くの人が集まってくる環境となっています。

■地区データ（令和元年10月1日現在）

人 口	22,708 人
年少人口(15歳未満)	3,381 人
生産年齢人口(15～64歳)	13,965 人
老年人口(65歳以上)	5,362 人
年少人口割合(15歳未満)	14.9 %
高齢化率(65歳以上)	23.6 %
世 帯 数	9,388 世帯

〈地区の現状〉

地区内にはおよそ 23,000 人が暮らしています。海老名駅西口開発により整備された地域、座間丘陵東側の坂が多く、交通の便が悪い地域などが存在します。地域内には、コミュニティバスが運行され、地域の足として活躍しています。また、ぬくもり号の運行により、高齢者等の外出支援に役立っています。

〈地域での主な活動〉

各地域で美化活動や防犯パトロールが展開されています。自治会を中心とした班単位・町内単位での活動は、地域福祉の基本である「近所づきあい」の機会を提供しています。また、マンションなどの新しい地域も子どもをキーワードに事業を開催、地域ニーズに応じた活動を展開しています。

各地域で開催されている“サロン”では、お茶のみという「小さなあつまり」から、健康をテーマとした講習会や体操・ハーモニカ教室といった「目的を持った集い」へと、地域の自由な居場所作りが工夫されています。

〈今後の方向〉

- 防犯防災などの共通課題を通じて組織強化を目指します。また、子ども会活動を自治会が中心となって地域全体の取組みに発展させ、三世代交流の輪を広げます。
- 自治会を始めとした団体の活動を通し、「声かけできる地域」を目標に、地域で暮らすという意識と繋がりを高めるため、地域活動の拠点整備の充実と活動自体への支援を図ります。



東部地区

〈位 置〉

市東部地区は、市東北部に位置し、相模野台地から続く座間丘陵の南にあたり目久尻川と大山道に挟まれた地域と、中央部峡部から東に突出した台地の部分から成り立ちます。

東は大和市と綾瀬市、西は国分、南は望地と綾瀬市、北は上今泉と座間市に隣接しています。昭和50年、相模鉄道かしわ台・さがみ野の両駅が開設され住宅地として急速に発展した地域です。

〈特 色〉

地区内に、相模鉄道かしわ台・さがみ野の2駅があり、駅前の商業施設や公園など住環境に恵まれ、高齢者にも住みやすい街となっています。また、米軍厚木基地の玄関口として外国人の姿も多く見られるなど、さまざまな人が集まってくる地域となっています。アパートやマンションも多く、他地区に比べ集合住宅の割合が高くなっています。

また、大和市・座間市・綾瀬市の3自治体と区域を接する特色があります。地域活動を考える場合、地域に住む海老名市民だけでなく、隣接市住民の動向も配慮して活動を展開しています。

■地区データ（令和元年10月1日現在）

人 口	22,480 人
年少人口(15歳未満)	2,780 人
生産年齢人口(15～64歳)	14,593 人
老年人口(65歳以上)	5,107 人
年少人口割合(15歳未満)	12.4 %
高齢化率(65歳以上)	22.7 %
世 帯 数	10,105 世帯

〈地区の現状〉

地区内には約 22,000 人が暮らしています。相模鉄道かしわ台・さがみ野の 2 駅があり、利便性が高く、さまざまな人が集まってくる環境となっています。特に東柏ヶ谷地域は、駅前を中心に集合住宅が多く、核家族や独居世帯の割合が高くなっています。また、転入された方が地域活動に携わる機会が少なくなっていることから、自治会加入率の低迷など地域性が希薄となっているのが現状です。

高齢者等の外出支援として、東柏ヶ谷の地区と病院や、市役所などの公共施設を巡回する、さくら号が運行しています。

〈地域での主な活動〉

自治会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、子ども会、青少年指導員、防災指導員、女性防火推進員など、福祉から防犯防災の各分野まで、地域で活動している組織は多種多様にあります。ゆめクラブなどのサークルも、地域福祉活動の一環だと考えています。

自治会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員が行っている「子育てサロン」や高齢者ふれあい昼食会、近隣地区住民も参加する「大塚ふるさとまつり」小中学校の生徒達と地域の方が参加する「コミュニティースクール」活動など、“地域ぐるみ”で相互に交流を図り、協力・協調の輪を広げたいと考えています。

〈今後の方向〉

- 地域で活動している組織それぞれが、自主的に継続的な地域福祉を展開していくという意識改革を図ります。
- 一番大切なことは地域のつながりです。地区全体が地域福祉に積極的に参加できるよう、既存施設や団体など地区内の福祉資源を活用し、「点」から「面」の活動へと発展させていきます。



中央地区

〈位 置〉

中央地区は、市の中東部に位置します。東は柏ヶ谷と綾瀬市、西は河原口、上郷、南は大谷・浜田町・国分寺台、北は上郷・上今泉に隣接しています。

〈特 色〉

中央地区は、小田急や相鉄の沿線開発による大規模団地が国分や望地に、さらに海老名駅前中央地域マンション群と、地区内人口が25,700人を超える人口密集地区です。また、駅前には大規模商業施設があり、駅を利用するだけでなく買い物などの目的で多くの人が集まってくる環境となっています。

■地区データ（令和元年10月1日現在）

人 口	25,625 人
年少人口(15歳未満)	3,484 人
生産年齢人口(15～64歳)	16,570 人
老年人口(65歳以上)	5,571 人
年少人口割合(15歳未満)	13.6 %
高齢化率(65歳以上)	21.7 %
世 帯 数	11,415 世帯

〈地区の現状〉

地区内にはおよそ26,000人が暮らしています。海老名駅周辺の大規模商業施設や大規模マンションによって市街地を形成する区域、相模国分寺遺跡周辺など、昔からの市街地が存在する地域、高度経済成長期の大規模開発による新興住宅区域の概ね3つの地域に分類されます。地域全体の共通課題として、住民相互の日常のコミュニケーション不足、高齢化による福祉サービスへのニーズの増大、市の中心地として駅や大型商業施設が複数あることから犯罪増加等の対応力強化が求められています。

高齢化率は地域に偏りがあり、一部地域では28%以上と市の平均を超えるところもある。

地区内には、交通不便地域の解消のため、コミュニティバスが運行され、地域の足として活躍しているものの、近くに商店がない、坂がきついなどの事情によって、交通不便、買い物不便地域であるところもあります。

〈地域での主な活動〉

地域内では、12の自治会からなる連合会と3つの単一自治会があり、それぞれの地域で、美化活動、自主防犯活動、防災活動等を行っています。

地区社会福祉協議会も2つあり、健康をテーマとした講習会や体操教室、昼食会等の居場所づくりのためのサロン活動を9箇所で開催しています。

また、2つある中学校区ごとに、青少年健全育成連絡協議会を組織し、自治会長、学校長、PTA会長、保護司、民生委員児童委員、青少年指導員等が連帯し、朝のあいさつ運動、ポスターコンクール、愛のパトロール等の活動を通じて、地域の児童生徒を見守っています。

〈今後の方向〉

- 地区社会福祉協議会による、サロン活動を通じた地域における居場所づくりや、青少年健全育成連絡協議会活動を通じた地域の社会資源の連携を進めることで、地域福祉の向上を図ります。
- 地域福祉活動を、日常的に、展開するためにも、常設の拠点づくりが求められています。



中部地区

〈位 置〉

市の中央部及び中央部東側に位置する中部地区。東は綾瀬市に、西は中新田・河原口・今里に、南は杉久保北・今里、北は勝瀬・中央・国分南に接しています。県央地区を南北に延びる座間丘陵の南端にあたり、標高 55 ㍎の台地が連なっています。台地の東側は目久尻川を見下ろす急崖となり、丘陵を頂点として西側には階段状の平坦地が続き、その先は海老名耕地の水田面が広がっています。

鍛冶返などの古い由来の地名を持つとともに、昭和 40 年代から 50 年代にかけて、国分寺台・みずほハイツ・浜田町といった大規模開発が行われ、この地域は、閑静な住宅街をなしています。

〈特 色〉

地区内で、大きく分けて 2 つの特性が見出せます。昔ながらの地域社会や古い習慣が残る大谷地域と、大規模開発により団地が形成された国分寺台・浜田町・みずほハイツ地域では、近所づきあいのあり方など地域に求めるものが違ってきています。

特に、国分寺台地域では、子ども世代が地域から離れて独立した結果、地域に子どもや若者の姿が少なくなり、高齢化率が市内でも非常に高い状況となっています

■地区データ（令和元年 10 月 1 日現在）

人 口	16,368 人
年少人口(15歳未満)	1,998 人
生産年齢人口(15～64歳)	9,319 人
老年人口(65歳以上)	5,051 人
年少人口割合(15歳未満)	12.2 %
高齢化率(65歳以上)	30.9 %
世 帯 数	6,578 世帯

〈地区の現状〉

地区内には約 16,000 人が暮らしています。地域全体の高齢化率 30.9%は市平均から見ても高い値を示していますが、大谷地域の高齢化率は 23.5%にとどまり、高齢化率 40.3%となっている国分寺台地域との地域差が見られます。自治会も地域によって組織化の度合いが異なり、地域の中心として機能している地域もあれば、役員のなり手がいないため、組織の体質改善に取り組んでいるところや、枠組みの見直しを検討している地域もあります。

地区内の交通不便地域の解消のため、コミュニティバスが運行され、地域の足として活躍しています。

〈地域での主な活動〉

大谷地域には自治会を中心に、大谷歌舞伎やささら踊り、お囃子といった伝統文化を子どもたちに伝える努力がなされているとともに、「大谷地区社会福祉協議会みんなのひろば」が新たに発足し地域活動の幅を広げています。また、国分寺台・浜田町地域では「国分寺台地域福祉協議会」、「国分寺台樽井まちづくり会」、「浜田地区社協ぬくもり」がそれぞれ活動しており、文化祭や健康教室、ふれあいサロンなどが開催されるとともに、防災や防犯活動も展開され、地区社会福祉協議会活動が根付きはじめています。また、各地域共通で美化活動、防犯パトロール、高齢者による子どもの見守りが展開されています。

〈今後の方向〉

- 高齢化が著しい中部地区では、それぞれの地域ニーズを地域で解決する活動の展開を図ります。そのためにも、情報提供や各団体とのコーディネートなど地域での関係づくりに努めます。
- 自治会や民生委員児童委員、地区社会福祉協議会など地域にある社会資源を牽引役に社会福祉活動を広げることに努めます。



西部地区

〈位 置〉

西部地区は、市の中西部に位置します。相模川の自然堤防上に早くから街道が整備され、その街道沿いに集落が形成されてきました。東は中央・勝瀬・大谷、西は相模川を挟み厚木市、南は今里・社家、北は上郷と隣接しています。

中世より海老名耕地とたたえられた水田地帯にも、マンション群や企業進出により都市化が徐々に進んでいます。さらに、地区を縦断する「さがみ縦貫道」や「海老名 IC」が開通するなど、地区の様子も急激に変わってきています。

〈特 色〉

史跡「厚木の渡し」に続く街道沿いに発展した西部地区。昔からの街道は拡幅舗装され、毎日多くの自動車が行きかっています。また、昔からの地域と新興住宅地・団地が混在し、地区全体の高齢化率は平均以下ですが、さつき町や上台ノ原団地など高齢化が急速に進んでいる地域もあります。

■地区データ（令和元年10月1日現在）

人 口	18,553 人
年少人口(15歳未満)	2,226 人
生産年齢人口(15～64歳)	11,945 人
老年人口(65歳以上)	4,382 人
年少人口割合(15歳未満)	12.0 %
高齢化率(65歳以上)	23.6 %
世 帯 数	8,369 世帯

〈地区の現状〉

地区内には、およそ19,000人が暮らしています。昔から交通要衝の地でしたが、大企業の進出や「海老名IC」開通など、さらに変わろうとしています。街道は自動車やトラックで毎日渋滞する状況ですが、地区の高齢者の足としての公共交通機関の整備強化が求められています。また、昔からある家の隣に新しくマンションが建つなど新世代である新たな住民との協調が地区の課題の一つになっています。

〈地域での主な活動〉

地域で恒例となっている盆踊りなど、地域活動の中心は「自治会」が担当しています。敬老のつどいや、かかしまつりやふれあいまちづくりなどのイベントでは、子どもからお年寄りまでが協力したり参加したりすることで、地域でのつながりが再確認されています。また、学校と地域との連携による防犯パトロール、通学時の見守りなど地域活動の環が広がっています。また4か所でサロンを行っており、その内2か所では支援学校の生徒達が参加する催しを開催しています。

かかしまつり(中新田)

刈入前の田んぼの畦道に、ずらり案山子が並ぶ「かかしまつり」。地域のグループや福祉施設、小学校、保育園、幼稚園などから、その年の有名人などをモチーフとした手作り作品が参加する「かかしまつり」は、海老名の秋の風物詩です。

〈今後の方向〉

- 誰もが気兼ねなく楽しめるよう、ボランティアや自治会OBなどの地域資源を活用して地域活動の推進を図ります。
- 地域活動のベースとなる地域コミュニティの強化と高齢者等の外出支援の整備を行い、地域のネットワークづくりを図ります。



南部地区

〈位 置〉

南部地区は、相模川左岸に位置し海老名市面積の40%を占めます。東は綾瀬市、南は藤沢市と寒川町に、北は中新田・大谷に接し、西は相模川を隔てて厚木市に隣接しています。地区の西半分は有馬耕地とよばれる広大な水田地帯。東半分は恩馬ヶ原とよばれる台地が広がり、目久尻川支流の釜坂川などの谷戸に流れる川が南北に流れています。

昭和30年、旧有馬村域である中河内・中野・社家・今里・上河内・杉久保北・杉久保南・本郷・門沢橋の各地域が海老名町に編入され現在に至ります。「地産地消」を合い言葉に都市型農業が営まれ、水田地帯の稲作とイチゴ・メロン・トマトのハウス栽培、バラ・カーネーションなどの花き、露地野菜などの栽培が盛んに行われています。

〈特 色〉

南部地区には、昔からの街道が東西に走るとともに、古くからこの地域で暮らす人たちが多く住んでいます。水田や畑地が広がり、市内で一番自然が残っている反面、バスなどの公共交通機関が地区全体をカバーしきれていないなどの状況があります。また、子世帯との三世帯同居や敷地内に若者夫婦の家を建てるなど、地域に若者や子どもたちの姿が多く見られます。

■地区データ（令和元年10月1日現在）

人 口	28,376 人
年少人口(15歳未満)	3,878 人
生産年齢人口(15～64歳)	17,048 人
老年人口(65歳以上)	7,450 人
年少人口割合(15歳未満)	13.7 %
高齢化率(65歳以上)	26.3 %
世 帯 数	11,396 世帯

〈地区の現状〉

地区内には約28,000人が暮らしています。歴史のある地域らしく「となり組み・組合制度」などの仕組みが残るところがあるなど、現在でも地域社会が機能している地区となっています。三世代同居など大家族で暮らす家も多く、「三世代地域」という大家族の中で、自然とお互いを助け合う「互助」の気持ちが育まれています。

〈地域での主な活動〉

少年野球から高齢者向けの文化サークルまで地域で人の和ができる活動が、活発に展開されています。特にどんど焼きや太鼓・囃子などの伝統行事を通じて、大人同士の付き合いが子どもたちに引き継がれていく風土が残っています。

〈今後の方向〉

- 自然が豊かに残り、地域ごとの繋がりや伝統が今も継承されている南部地区。三世代が共に暮らせる地域だからこそ育まれる伝統や社会性を、これからも大切にしていき、「三世代地域」という南部地区の素晴らしい特性を、発信していきます。
- 地域の連帯をさらに強くするためにも地区社会福祉協議会立ち上げに向けた地区の盛り上げやコミュニティセンターなどの地域の活動拠点の整備充実を図ります。



4 計画の基本目標

社会情勢や国・県の動き、アンケート結果などから見られる地域福祉の課題を基に、基本理念の実現のため、前計画の基本目標を踏まえ、基本目標を設定します。

【前計画】

基本目標1 市民の支え合いによる地域福祉社会の現実をめざして
(1) 地域福祉の担い手
(2) 協議社会への体制整備
(3) 自助・共助・公助の役割
(4) 地域をつくるしくみ
基本目標2 安心と信頼のあるまちづくりをめざして
(1) 情報提供のしくみづくり
(2) 相談支援のしくみづくり
(3) 地域医療の充実
(4) 心の健康を支えるしくみづくり
(5) バリアフリー等の推進
基本目標3 地域福祉に関する活動への住民参加の促進をめざして
(1) 市民ネットワークの形成（小地域ネットワーク）
(2) 地域の拠点整備
(3) ボランティア活動等の推進
(4) 福祉教育システムの構築

【本計画】



- 社会情勢や市の現状
- 海老名市の地域福祉の課題

基本目標1 地域を支える人づくり
(1) 地域福祉の担い手
(2) 地域福祉の意識づくり
(3) 福祉・介護人材の発掘・育成
基本目標2 安心して暮らしやすい地域づくり
(1) 市民ネットワークの形成
(2) 地域の拠点整備
(3) ボランティア活動等の推進
(4) 暮らしやすい地域をつくるしくみ
(5) 災害等における福祉的支援
基本目標3 包括的な支援のしくみづくり
(1) 情報提供のしくみづくり
(2) 相談支援のしくみづくり
(3) 地域福祉に関する事業の健全育成
(4) 心の健康を支えるしくみづくり
(5) 協働社会への体制整備
(6) 生活困窮者等の自立支援